

第2リンサンカリ (KH_2PO_4) 飽和溶液
95%

△ 荷重速度 毎分 1,000 Kg 常温

3. 試験結果及び成果

初期, 1ヶ月, 3ヶ月, 6ヶ月の経時的変動の試験結果としては初期より1ヶ月目が平

均して強度があり, 長期間になるにしたがつて接着力に問題を残すようである。条件中湿度95%については接着力が低下するおそれがある。

なおこの結果については最終回の結果に基づいて総まとめとする。

Kwila 及び Teak 材の乾燥スケジュール

遠 矢 良 太 郎

1. 目的

Kwila や Teak 材が 最近フローリングや家具用材として使用されているが, 乾燥に関する資料が乏しいので 試験を行い 乾燥スケジュールを設定する。

2. 概要

樹種 : Kwila (*Intsia* sp.) …

……ニューギニア産

Teak (*Tectona* sp.) …

……インドネシア産

乾燥スケジュールを設定するために 100°C 急速乾燥試験を行った。

100°C 急速乾燥試験結果

樹種名	材	全乾比重	欠点の種類と程度			初期含水率(%)	含水率1%までの乾燥時間(hr)	推定された条件			全乾収縮率	
			初期割れ	断面の糸巻き状の変形	内部割れ			初期温度	初期乾湿球温度差	終末温度	幅 (%)	厚 (%)
Kwila	材1	0.79	4	2	1	42.7	64.5	55	3.6	83	2.54	5.60
	材2	0.76	4	2	1	46.6	64.5	55	3.6	83	2.36	6.33
Teak	材1	0.72	2	3	1	24.7	140	58	4.7	83	3.1	3.6
	材2	0.67	2	3	1	31.7	110	58	4.7	83	3.1	3.2

上記の結果よりスケジュール表を作製した。

Kwila, Teak材の人工乾燥スケジュール

含水率(%)	Kwila		Teak	
	乾球 温度	乾湿球 温度差	乾球 温度	乾湿球 温度差
生～35	60℃	4℃	55℃	4℃
35～30	60	4	55	4
30～25	65	6	60	6
25～20	70	9	65	9
20～15	75	15	70	15
15～10	80	25	80	25
10以下	80	30	80	30

3. 成果

作製したスケジュール表をもとに乾燥の指導を行った。

タブノキの乾燥性に関する試験

遠矢良太郎

1. 目的

本県の木製品によく用いられるタブノキについて天然乾燥による含水率低下と収縮率変化を測定する。

2. 概要

樹種：タブノキ Machilus
tumbergie S.

試片寸法：2.7(R)×10(T)×30(L)cm

測定期間：48年7月10日～49年5
月7日 約10ヶ月

試片の設置場所：本場の室内と屋上にそ
れぞれ2枚ずつ設置した。

タブノキの各含水率に達するまでに要する天
乾日数

設置 条件	No.	全 乾 比 重	初 期 含 水 率	各含水率に達する までの天乾日数				平 衡 含 水 率%
				30 %	20 %	15 %	12 %	
室 内	No.1	0.67	79.8	31	54	81	109	11.4
	No.2	0.63	83.3	33	57	81	109	11.4
屋 外	No.1	0.66	81.1	35	61	82	109	11.8
	No.2	0.73	69.5	32	57	80	105	11.6

3. 成果

2.7cm厚のタブノキは天乾期間1ヶ月で
含水率が30%、2ヶ月で20%、4ヶ月で
12%まで低下することがわかった。